



【発信日】令和3年4月20日

【問い合わせ先】

大野市教育委員会事務局（大野市歴史博物館内）

生涯学習・文化財保護課 佐々木、不二山

電話 0779-65-5520 内線 78-576

国重要文化財・旧橋本家住宅を清掃

～4月29日（木）より一般公開再開～

令和3年4月29日（木）より、冬季に閉鎖していた重要文化財「旧橋本家住宅」の一般公開を再開します。

つきましては、一般公開に備え市職員が建物清掃を行いますので、当日の取材と一般公開再開の周知をお願いいたします。

記

- 1 日 時 4月26日（月）9時30分～正午頃（天候に関わらず実施します。）
- 2 場 所 大野市宝慶寺字笠松7番地 重要文化財「旧橋本家住宅」
- 3 内 容 建物内外の清掃
展示品の掃除、床の水拭き、土間の掃き掃除、建物周囲の掃除など
※昨年11月4日に冬期閉鎖しています。
- 4 別紙資料
 - ・重要文化財「旧橋本家住宅」について
 - ・一般公開について

◆重要文化財「橋本家住宅」

時代：江戸中期（18世紀）

管理者：大野市

間口六間奥行き四間、入母屋造り茅葺平入の建物で、越前Ⅱ型と呼ばれる形式に分類されます。

橋本家は宝慶寺集落にもとはあり、代々集落の庄屋や戸長をつとめた家柄の農家でした。宝慶寺集落は宝慶寺の門前町として栄えたところで、一時は百戸近くの家があったと伝えられています。その後、昭和45年頃から集落の過疎化が進み橋本氏も市街地に移住したため、翌46年に大野市に寄贈されました。

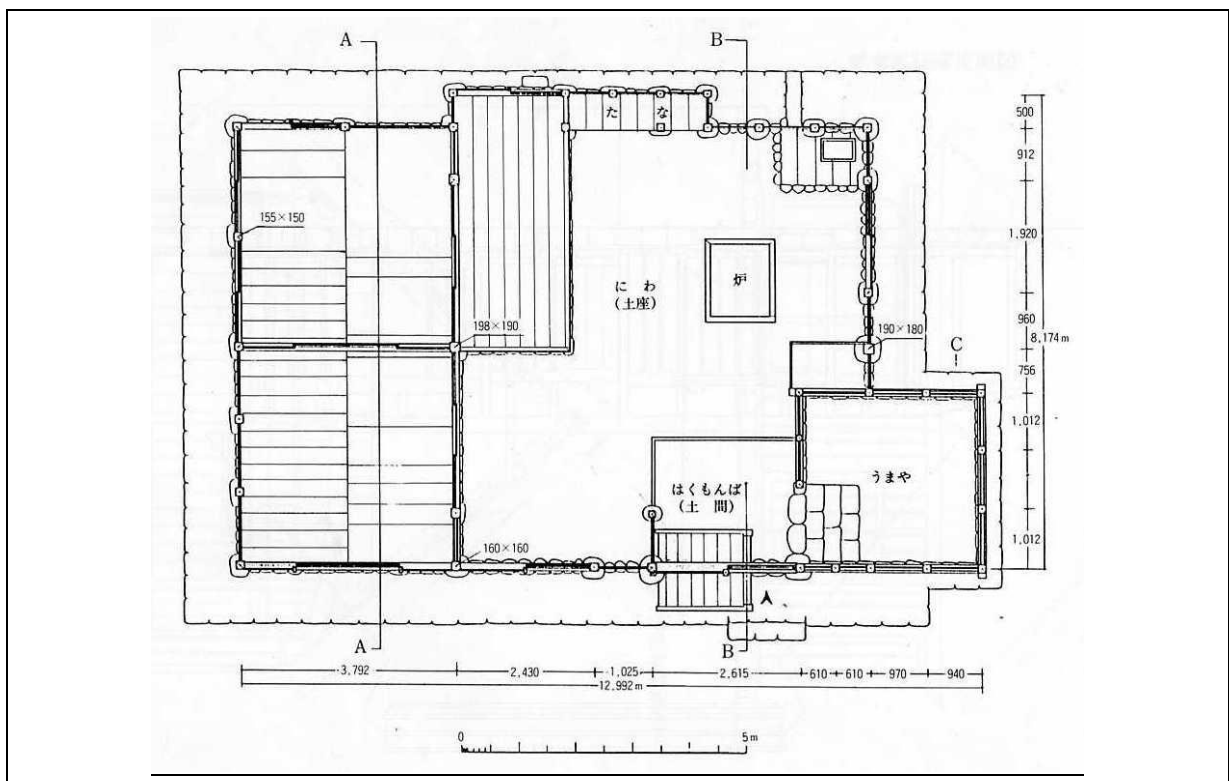
建物は、明治以降になると建物の周囲に庇（ひさし）を増築したり、部屋内部の採光のためガラス戸をつけたりと生活様式の変化に伴い増改築されましたが、建物の主要部分については建築当時の木材や構造がよく残っていたため、昭和44年に国の重要文化財に指定されました。その後、昭和48年に保存管理の目的から現在地に解体移築したのをきっかけに、建築当時の姿に復元しました。

大戸口から内部に入ると、玄関にあたるハクモンバがあり、右手横にウマヤがあります。ウマヤは深さ約60cm、周りは石積みで屋根は板葺きとなっています。

屋内中央には、炉の設けられた広さ約四間四方のニワがあります。ニワは土座形式で、当時は土間の上にわらむしろを敷き詰め、炉を中心にして日常生活の大半が営まれていました。天井はすのこ天井で、わらむしろを敷いて物置に使用されていました。ニワの奥には切石敷きの流しと水槽がある水屋と棚があります。

ニワの左手には、板床の上にわらむしろを敷いた広さ八畳ほどの上ザシキと下ザシキがあり、上ザシキの前に、幅一間ほどの板敷きの部分が設けられています。復元前には、ザシキ二間にわたって縁側があり、上ザシキには床の間と仏壇がありました。

柱は、内部に立つ上屋柱にケヤキ、側柱には主にクリが使用されています。



一般公開について

- 1 日 時：4月29日（木）～11月3日（水）までの水曜、日曜、祝日、振替休日（計62日）
午前9時～午後4時（入館：無料）
- 2 場 所：大野市宝慶寺字笠松7番地
重要文化財「旧橋本家住宅」（昭和44年12月18日指定）
- 3 内 容：管理人が住宅内の囲炉裏に火を入れ、一般に公開する。
- 4 目 的：奥越の山間部にみられた代表的な古民家である旧橋本家住宅を一般に公開することにより、江戸時代当時の豪雪地帯で暮らす人々の生活に気軽に触れる機会とする。
また、いろりに火を焚く事により湿気、虫害による建物の被害を防ぐ。
- 5 その他：一般公開は平成7年から実施。
平成29年1月の雪害により屋根茅葺が破損し、修理を行ったため、2年間一般公開を休止していました。

令和2年度	入館者数	(1,315人／90日	14.6人/日)
令和元年度	〃	(1,638人／95日	17.2人/日)
平成28年度	〃	(899人／38日	23.6人/日)